

テーマ	北信越の輪を広げ、次世代につないでいこう
テーマ 設定理由	各県のリーダー会の活性化をめざして、昨年度に引き続き同じテーマとした。 まずは北信越ブロックの中心的な役割を担うメンバーが協議・研修を行う中から、ヒントやアイディアを互いに交換し共通認識を図りながら北信越ブロック全体のレベルアップを図っていこうということでテーマ設定を行った。

◆期日

平成29年10月28日(土)～10月29日(日)

◆場所

福井県立 芦原青年の家 （福井県）

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会

ブロック研究大会ポスター報告会

北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

◆参加対象

リーダー、育成担当指導者（若手指導者）

◆参加者（内訳）

	長野県	新潟県	富山県	石川県	福井県	合計
リーダー	5 名	7 名	8 名	4 名	6 名	3 0 名
育成担当 指導者	2 名	2 名	1 名	2 名	5 名	1 2 名
合計	7 名	9 名	9 名	6 名	1 1 名	4 2 名

◆経費

参加料：3 0 0 0 円

◆運営スタッフの体制・運営方法

開催県である福井県のリーダー会が中心となり、準備・運営等を行った。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
 ブロック研究大会ポスター報告会
 北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

◆日程

1日目：10月28日（土）

13：30 受付
 14：00 開会式・
 オリエンテーション
 14：30 各県活動報告
 14：45 アイスブレイク
 レクの考案
 17：15 夕食
 18：00 キャンプファイヤー研修
 レクの発表
 20：00 ディスカッション&反省
 (班別)

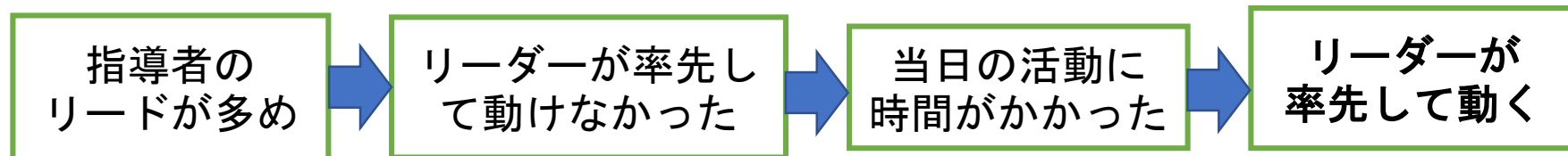
2日目：10月29日（日）

6：00 起床・清掃・荷物整理
 7：00 朝食
 8：00 レクの実践、まとめ
 (中学生リーダー)
 活動の振り返り
 (高校生以上)
 11：00 全体の振り返り
 日独交流の報告発表
 12：00 昼食
 13：00 記念写真・旗作り
 14：00 閉会式

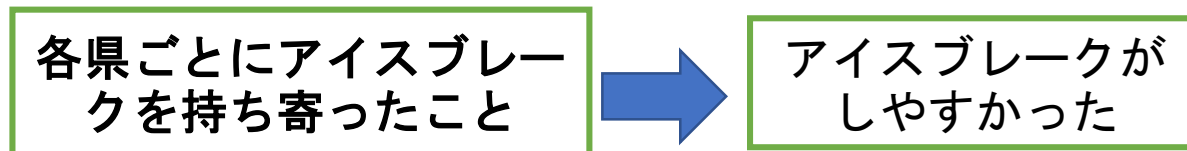
◆アイスブレイク

「活動の内容や様子活動から見えてきた課題、対策、成果など」

課題・対策



成果



◆キャンプファイヤー

「活動の内容や様子や活動から見てきた課題、対策、成果など」

課題・対策

初めての司会で進行が慣れなかった

練習をもっとする
経験を生かす

キャンドルサービスの時間配分が甘かった



担当の人との情報共有が出来ていなかった

成果

- ・ キャンプファイヤーの中でも色々な遊びが皆できて仲が深まった。
- ・ キャンプファイヤーを通して一日を振り返る事ができた。



◆自由交歓・日独交流映像鑑賞

「自由交歓の様子や日独交流映像の内容の説明など」

- ・ 他県の人たちと、日独の写真を見ながら
楽しく会話することができた
- ・ 各県のお菓子をもち寄り
話が弾んだ



◆レクの実践・活動の振り返り

「活動の内容や、話し合ったことなど」

課題・対策

高校生が主に意見を出して
いて、中学生があまり
意見を出せなかった



中・高生で話すときは、高校
生から話を振ってあげるよう
にした方がよかった。

成果

- ・ 中高生でレクを分けて考えることができた。
- ・ 前日のレクより創意工夫することができた



まとめ

- ・ 参加者はルールの中で精一杯楽しむべきだと思います
- ・ リーダーや周りの人のレクをするという雰囲気作りが大事



◆日独交流の報告発表

「発表の様子や話し合ったことなど」

・ 事前に発表の準備をしていたので、みんなしっかり聞いてくれてよかった。

・ 映像を見ながら派遣団員が
現地の人との交流の様子を
伝えることができた



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

◆記念写真・旗作り

「旗作りの意味や様子など」

研究大会を始めてから毎年旗作りをしている。

大会中にあった出来事などをわきあいあいと書いてていきます。

寄せ書きとはまた違ってみんなの一つの思い出作りになっている。



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
 ブロック研究大会ポスター報告会
 北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

◆大会を開催した成果、反省、課題

反省・ 課題

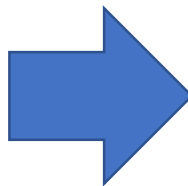
- ・主催側の県リーダーが積極的に行動できていない場面が多々あった
- ・全体的な時間配分や指導者の話を聞いて行動すること
- ・アイスブレイクを仕切ったのが指導者や高校生で、中学生も前へ出て自分から話せると良かった
- ・リーダーとしてのメリハリをつけないといけないと感じた
- ・個人レベルでリーダーとしての意識を持たなければならない

成果

- ・全体を通してやる気があり、積極的に活動できた
- ・レクの考案では、他の班のリーダーからアドバイスをもらうことができていた
- ・途中からしっかり仲が深まり、協力してレク説明など意見が出せていた
- ・場の雰囲気悪くせずに「気づく」ことができるようにすることが少しできた

「昨年度の全国リーダー連絡会で協議・検討したことがどれくらい活かされたか」

・事前会議で検討した内容を連絡会で意見をもらったことで、リーダーの意見を十分に取り入れられた。



アイスブレイクを実施することや、指導者の招集について事前に把握することができた。

◆大会を開催した成果、反省、課題

＜成果＞

- ・ 各県代表者による事前会議（7月22日～23日）を開催し、過去の大会の振り返りや今後の方針、研究内容、事前アンケート等について協議し、ブロック全体での共通認識を図った。
- ・ 班活動を中心にレクレーションの考案や実践、振り返り等を通して、他県のリーダー活動の様子や進め方等について学んでいった。
- ・ 日独交流の通訳の方にも参加してもらい、交流時の映像や報告会等を行うことができた。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

◆大会を開催した成果、反省、課題

＜課題＞

- ・ リーダー活動の活発化
- ・ 各県代表者による本大会の運営体制の確立
- ・ 大会への参加促進

